

「河川水辺の国勢調査」を実施 ～河川内の自然環境の変化を定期的、継続的、統一的に調査～

河川事業や河川管理の基礎資料とするため、瀬や淵の状況等を調査する「河川調査」と河川内の魚介類、植物、鳥類等の生息・生育状況等を調査する「生物調査」を、平成2年から「河川水辺の国勢調査」として、定期的、継続的、統一的に行っています。

今年度は、前回調査から9年ぶり4回目となる両生類・爬虫類・哺乳類調査を実施するので、お知らせします。

国土交通省東北地方整備局湯沢河川国道事務所では、雄物川上流部および玉川など6支川、総延長115.9kmを管理しています。

■調査時期及び調査方法（別紙参照）

春季・夏季・秋季・冬季の4回調査します。

《今回は春季調査》

5月14日～16日の8時～16時までを予定

■調査地点（位置図参照）

雄物川本川 3地点

支川（玉川、皆瀬川、成瀬川）各1地点

5月14日：本川①地点及び本川②地点

15日：玉川地点及び皆瀬川地点

16日：成瀬川地点及び本川③地点

■調査体制

3人

なお、本調査にあたっては、小笠原暁秋田大学名誉教授にアドバイスを頂いております。

※今後の調査（夏季以降）についても調査前にお知らせ致します。

※気象状況等によっては、調査を延期することがあります。

当事務所HP URL (<http://www.thr.mlit.go.jp/yuzawa/>)

※発表記者会：秋田県政記者会、横手記者会、秋田魁新報社大曲・湯沢支局

《問い合わせ先》

国土交通省東北地方整備局湯沢河川国道事務所

湯沢市関口字上寺沢 64-2
電話 0183-73-5544

技術副所長

つちだ
土田

つねとし
恒年（内線204）

調査第一課長

はたやま
畑山

さくえい
作榮（内線351）

雄物川上流 河川水辺の国勢調査実施経緯

調査項目	調査年	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
		H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
生物調査	魚介類	○					○					○					○					○			
	底生動物						○					○					○					○			
	鳥類		○					○					○						○						
	植物			○					○					○										○	
	陸上昆虫類				○					○						○					○				
	両生類・爬虫類・哺乳類					○					○					○									○
河川調査	水域調査													○				○					○		
	構造物調査													○				○					○		

調査時期一覧

調査項目	調査時期・設定根拠
両生類・爬虫類・哺乳類調査	春季 ・5月14日～16日 ・サンショウウオ類、カエル類の繁殖期にあたる。 ・天気の良い日には日光浴中の爬虫類も確認しやすい。 ・哺乳類ではネズミ類の繁殖期にあたる。
	夏季 ・6月中旬～6月下旬 ・モリアオガエルなどの繁殖期にあたる。 ・哺乳類ではネズミ類の繁殖期にあたる。
	秋季 ・10月上旬～10月下旬 ・天気の良い日には日光浴中の爬虫類を確認しやすい。 ・多くの哺乳類で繁殖期にあたるほか、ネズミ類の個体数も増加しており確認しやすい。
	冬季 ・12月下旬～2月中旬 ・広葉樹が落葉して哺乳類を確認しやすい。 ・雪上でのフィールドサインが確認しやすい。

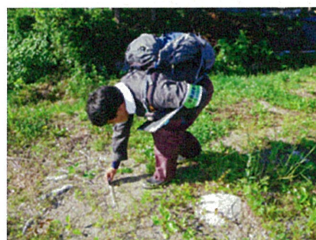
現地調査内訳

調査項目	調査時期	春季	夏季	秋季	冬季
		両生類	捕獲確認	○	○
爬虫類	捕獲確認	○	○	○	
哺乳類	目撃法	○	○	○	○
	フィールドサイン法	○	○	○	○
	トラップ法		○	○	

調査手法



捕獲確認の例



目撃法の例



足跡などを確認する
フィールドサイン法の例



かごワナによるトラップ法の例

雄物川上流で過去の調査で確認された主な種

- ・両生類では「トウホクサンショウウオ」や「ニホンアカガエル」など、延べ13種が確認されています。
- ・爬虫類では「ヤマカガシ」や「マムシ」など、延べ7種が確認されています。
- ・哺乳類では「アナグマ」、「カモシカ」など、延べ22種が確認されています。

調査位置図

